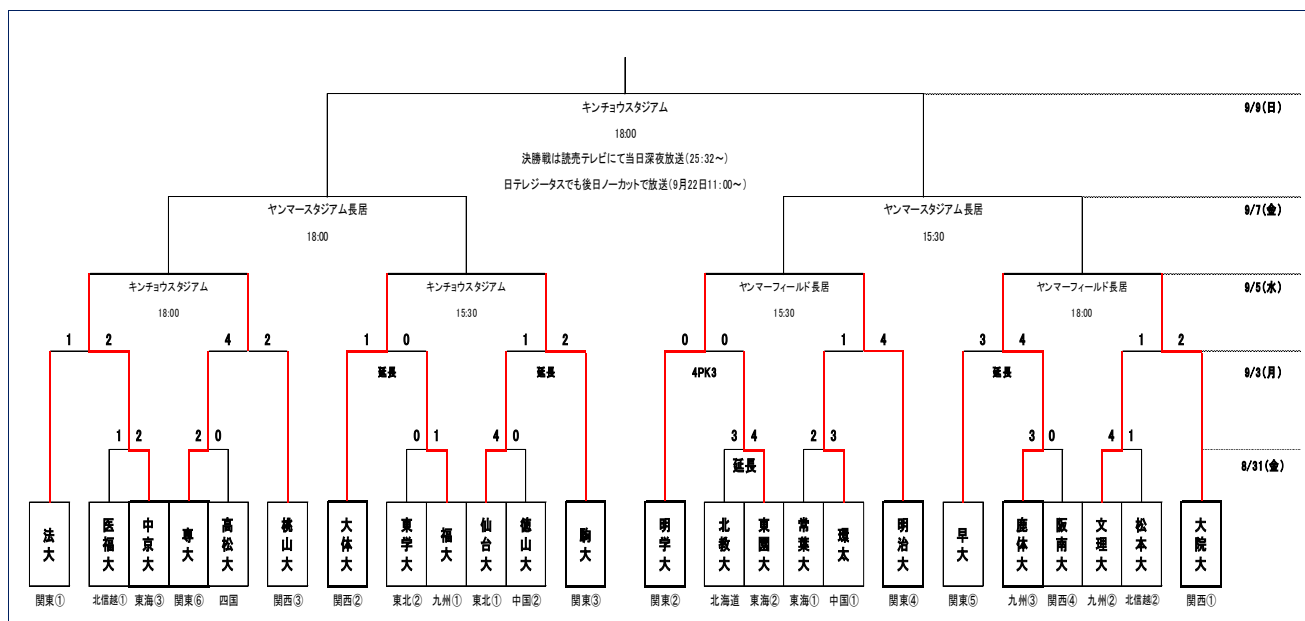


VOL.03 第42回 総理大臣杯全日本大学サッカートーナメント 準々決勝

真の大学日本一へ



©JUFA



ゴミは各自で
お持ち帰りください。

総理大臣杯の1回戦から準々決勝は
無料で観戦できます！

Match Preview

試合の見どころ

キンチョウスタジアム

15:30 KICKOFF

Reported by 荒木茂(関西学連)

大阪体育大学

VS

駒澤大学

昨年インカレで敗れた福岡大学を延長の末に降した大阪体育大学・松尾元太監督は「PKの1点でも、しぶとく勝てたので合格点」とほっとした様子。「ここから上へ勝ち進むのが難しい」と言いながら、中一日の準々決勝に向けて闘志を燃やす。

こちらも延長で初戦劇的勝利の駒澤大学。秋田浩一監督は「決定力不足で苦しんだ」と振り返る。大阪体育大学に対しては「走り負けないようにしたい。粘って守り、数少ないチャンスを活かせば、勝機が見えてくる」と話した。

キンチョウスタジアム

18:00 KICKOFF

Reported by 佐藤謙治(読売新聞社運動部)

中京大学

VS

専修大学

試合を重ねるごとに調子を上げてきた専修大学、前回王者を破って勢いに乗る中京大学。ともに走力があり、攻撃陣が好調の両チームだけに、中盤での球際の攻防が鍵を握る。専修大学主将のDF6、小林岩魚(4年)は「反省点はしっかりと修正し、自分もチームも成長していきたい」と意気込み、中京大主将のDF3、村瀬大地(4年)は「強いチームに勝ったからこそ次の試合が大事。ここで満足せず、さらに上を目指す」と力強い。

ヤンマーフィールド長居

15:30 KICKOFF

Reported by 貞永晃二(サッカーライター)

明治学院大学

VS

明治大学

明治学院大学・鈴木修人監督は、「関東以外に負けると帰れないと思っていたので、(明治大学に)負けていいわけではないですが(笑)、アミノバイタルではPKで勝ったので、相手はあれ以上の力を出してくるはず。全国大会で真剣勝負を明治さんとやれるなんて光栄なこと」とチャレンジャー精神でぶつかる。明治大学・栗田大輔監督は、「失点は仕方ないが、そこで数人が下を向いてプレーしていたのを怒った。優勝するチームは常に前を向いてどんな状態でも前進するチームだと思う」と勝って兜の緒を締めていた。

ヤンマーフィールド長居

18:00 KICKOFF

Reported by 学連幹事

鹿屋体育大学

VS

大阪学院大学

早稲田大学から大金星をあげた鹿屋体育大学。「試合は早稲田大学にボールを支配される展開だったが、粘り強い守備をすることができ、そこからカウンター攻撃に繋げる事が出来たのが非常に良かった」と塩川勝行監督は試合を振り返った。「次戦もしっかりハードワークをして、攻守の切り替えを早くしチーム全員で戦いたい」と語る。

2回戦を勝利した大阪学院大学。「相手の攻撃に対して、HTでしっかりと守備を修正できたので上手く戦えた。しかし、終盤の失点は反省すべき点」と試合を振り返った藤原義三監督。「今まで通り総力戦で戦っていききたい。短い期間でより良くなるようにしたい」と話す。

関西学生サッカー連盟公式SNS

SNSアカウント一覧

- ①試合前日には、公式facebookにて試合の見どころを紹介！！
 - ②試合当日には、公式Twitterにて全会場の前半スコア&試合終了時スコアを投稿！！
- ※当日のメンバー表&公式記録は公式facebookにて投稿します。
- ③試合後の詳しい結果を公式facebookにて投稿！！

各公式サイトへはQRコードより読み取り、アクセスいただけます。
大会情報盛りだくさんの関西学生サッカー連盟公式SNSをぜひご活用ください！

facebook



Twitter



Match Review Result & Report

Reported by 佐藤謙治 (読売新聞社運動部)

専修大学

vs

桃山学院大学

2018年9月3日(月) 15:30キックオフ
会場/ヤンマースタジアム長居 天候/晴 入場者数/352人

3年ぶり出場の専修大学が快勝し、8強入りを果たした。攻守で鍵を握ったのは左サイドバックのDF6、小林岩魚(4年)。15分、左サイドを攻め上がり、鋭いドリブルでペナルティーエリアの深い位置までえぐる。低い弾道で中央へ折り返すと、逆サイドにいたFW11、中山克広(4年)が先制ゴールを押し込んだ。小林はさらに19分、今度は右サイドから中央へ正確なクロスを上げ、MF15、鹿沼直生(3年)の2点目につなげた。いずれも高精度の左足から放たれたアシスト。プレースキッカーとしても3、4点目につながる正確なコーナーキックを蹴り、全得点に絡んだ。J2甲府入りが内定している小林は「得点につなげられたことはよかったが、まだ守備で修正点がある。反省を次に生かしたい」と次戦を見据えた。

前半のうちに3点をリードした要因は、チームに徹底された出足の鋭さだ。球を失うと数人で相手のボールホルダーを囲み、攻撃の起点に圧力をかけた。ただ、運動量が落ちた後半に2失点したのは反省点。源平貴久監督は「一発勝負なので、選手たちも『勝たなければいけない』という意気込みで硬くなっている部分がある。もっと集中力を高めていきたい」と手綱を緩める様子はない。

5年ぶり出場の桃山学院大学は、後半に細かいパス回しから粘り強く2点を返したが、反撃も及ばなかった。

専修大学	4	3-0 1-2	2	桃山学院大学
15分 中山克広(小林岩魚)			88分 毎熊龍矢	
19分 鹿沼直生(小林岩魚)		得点	90分 上西健也(徳網勇晟)	
33分 鹿沼直生(小林岩魚・大西拓真)		(アシスト)		
85分 中山克広				



関西学生サッカーに専用スタジアムを!!

関西学生サッカーの聖地づくりを目標に“未来・夢倶楽部会員”を募集して

います! 終身会費30,000円で、いつでも入会可能!



※未来夢倶楽部は当連盟主催・主管の全ての大会に無料で入場可能です。

関西学生サッカー未来・夢倶楽部
会員募集中!!



夢実現はわたしたちの合言葉



入会案内は入場ゲート受付にご用意しています!

MIKASA

KIRIN
キリンビバレッジ

MIZUNO

HOKOKU
ENGINEERING

mandom

Match Review Result & Report

Reported by 佐藤謙治(読売新聞社運動部)

法政大学

vs

中京大学

中京大学が前回王者の法政大学を破った。球際でのぶつかり合いをいわず、最後まで走り抜き、関東地区第1代表にリズムをつかむゆとりを与えなかった。

開始直後から攻撃的に挑んだ。ボールを保持すると両サイドバックが同時に高い位置を取り、前線の枚数を増やした。これには攻守両面での狙いがある。攻撃面では、主将のDF3、村瀬大地(4年)とDF4、加田淳哉(2年)の両センターバックが持つフィードのセンスを生かして攻撃を組み立てること。守備面では、両ワイドが相手陣の深部で数的優位を作り、法政大学のサイドハーフを押し込めることだ。

狙いは当たった。13分、左サイドからMF8、大谷晃平(4年)が浮き球で中央へ。これをFW7、大城佑斗(4年)が押し込んで先制に成功した。17分に同点とされたが、攻める姿勢を失わない。後半もサイドから再三にわたってチャンスを作り、79分、中央でDF18、辻泰志(3年)がシュート。これがクロスバーに当たって跳ね返り、再び反応した辻が右足を振り抜いて決勝ゴールを決めた。

中京大学の永富裕也監督と法政大学の長山一也監督は、J2富山とともにプレーした元チームメート。その縁もあり、大会前に練習試合を行った。「走力を上げないと関東のトップチームには勝てない」(永富監督)と、夏場は走り込みを徹底。その成果を存分に生かし、番狂わせを演じてみせた。

法政大学は先制された直後に追いつき、後半は攻撃的な選手を投入して何度もゴールに迫ったが、得点に結びつかなかった。

2018年9月3日(月) 18:00キックオフ
会場/ヤンマースタジアム長居 天候/晴 入場者数/517人

法政大学	1	1-1 0-1	2	中京大学
17分 青柳悠汰(高木友也)		得点 (アシスト)	13分 大城佑斗(大谷晃平) 79分 辻泰志	



テレビ放送のご案内

放送局	放送日	放送時間
読売テレビ	9月9日(日)	25:32～ 関西ローカル
日テレG+	9月22日(土)	11:00～
あすリートチャンネル	9月9日(日)	18:00～ LIVE配信

※放送時間は変更になる可能性があります。大会プログラムP.6・7にも掲載しています。

ご来場のみみなさまへ

MATCH PREVIEWは、モノクロで配布させていただきます。

ご理解ご了承をお願いいたします。

*カラー版は公式サイトに掲載しております。

Match Review Result & Report

Reported by 学連幹事

早稲田大学

vs

鹿屋体育大学

2018年9月3日(月) 15:30キックオフ
会場/ヤンマーフィールド長居 天候/晴 入場者数/367人

関東リーグ1位の早稲田大学に対するは1回戦で阪南大学に勝利した鹿屋体育大学。試合は序盤から動く。早稲田大学は試合開始後からMF11、相馬勇紀(4年)を中心に攻撃を組み立てる。すると9分、右サイドでボールを受けた相馬がゴールを挙げ先制。連戦の疲れから守備が安定しなかった鹿屋体育大学だが、失点後から相手の攻撃に対応し始め、ボールを奪う回数が増える。16分、MF7、森川和命(4年)があげたクロスにFW14、岡田浩平(4年)が合わせ同点。しかし、早稲田大学が前半終了間際にショートカウンターからMF10、石神佑基(4年)が決め2-1で前半終了。

後半は鹿屋体育大学がMF10、樋口雄太(4年)を中心に攻め、一進一退の攻防を繰り返す。60分、MF16、渡邊有也(4年)がミドルシュート決め2-2。しかし10分後、早稲田大学は相手守備陣の中央を崩しMF14、藤沢和也(3年)のパスを相馬が決め勝ち越し。早稲田大学の勝利が頭にちらつき始めた試合終盤90+3分、FW20、藤本一輝(2年)が同点弾を決め試合を三度振り出しに戻した。

このまま試合は延長戦に進み、両大学共にチャンスを作り出すも決めきれない展開が続く。この状況を打破したのはまたもや藤本。この試合2得点目となるゴールを挙げ4-3で鹿屋体育大学を勝利に導いた。

早稲田大学	3	2-1 1-2 0-0 0-1	4	鹿屋体育大学
9分 相馬勇紀			16分 岡田浩平(森川和命・綿引康)	
45分 石神佑基(鎌先祐弥)		得点 (アシスト)	60分 渡邊有也(澤居達)	
70分 相馬勇紀(藤沢和也)			90+3分 藤本一輝(宮内真輝・五十嵐理人)	
			105分 藤本一輝	



Reported by 学連幹事

日本文理大学

vs

大阪学院大学

2018年9月3日(月) 18:15キックオフ
会場/ヤンマーフィールド長居 天候/晴 入場者数/467人

前半立ち上がり、日本文理大学はFW9、東海林佑飛(2年)が中心になり試合を優位に進めるが、相手の守備陣に阻まれ得点に繋げることが出来ない。対する大阪学院大学は、試合開始早々に主将のMF14、三木水都(4年)が負傷により交代。チームの要がいなくなったものの、28分MF8、川崎健太郎(2年)のCKをMF11、杉山蒼太(3年)が左足で押し込み先制する。その後、両チームとも決定的なチャンスを作れず試合を折り返す。

後半に入り、大阪学院大学はDF6、生藤弘樹(4年)の鋭いクロスにFW15、見野龍太郎(2年)が合わせて追加点を挙げる。得点の欲しい日本文理大学は、DF18、坂本尚幸(2年)とDF8、山田大地(3年)の両サイドを中心に猛攻を仕掛け始める。相手の守備の距離感が広がったところを逃さず、山田が右足を振り切り1点を返す。だが、その後もペナルティーエリアまでボールを運ぶがネットを揺らすことは出来ず試合終了。数少ないチャンスを得点に繋げた大阪学院大学。藤原義三監督の語る「総力戦で戦う」をポイントに、準々決勝に駒を進めた。

日本文理大学	1	0-1 1-1	2	大阪学院大学
88分 山田大地		得点 (アシスト)	28分 杉山蒼太(川崎健太郎)	
			56分 見野龍太郎(生藤弘樹)	



Match Review Result & Report

Reported by 貞永晃二(サッカーライター)

IPU・環太平洋大学

vs

明治大学

2018年9月3日(月) 15:30キックオフ
会場/万博記念競技場 天候/曇 入場者数/442人

ここ3年連続で決勝進出を果たしている、「夏に強い」明治大学の初戦の相手はIPU・環太平洋大学。常葉大学を終了間際の得点で振り切って勝ち上がり、果敢に関東勢に挑む試合が期待されたが、その実情は、「試合前からコンディションが悪く、身体がしんどい感じ。フレッシュな状態で戦いたかった」とはIPU・環太平洋大学の桂秀樹監督。中2日休み、スタメンを2人代えたとはいえ酷暑の夏の大会は選手には過酷なものだった。序盤こそ五分に戦っていたものの、20分以降は時折カウンターを仕掛けるだけで、ほぼ明治大学のワンサイドに。GK31、宮野光雄(4年)の好セーブでなんとか耐えている状態になった。そして39分、明治大学はGKからのキックで抜け出したMF10、小野雅史(4年)が左足で豪快に決めて先制した。なかなかチャンスを決め切れずにいた明治大学にとって前半リードして折り返せたのは大きく、53分にFW18、小柏剛(2年)、62分にMF31、森下龍矢(3年)、65分にFW9、村田航一(4年)が次々ネットを揺らし勝利を決定づけた。IPU・環太平洋大学は終盤にFW9、滝川皓也(4年)が意地で一矢を報いるのがやっとだった。

IPU・環太平洋大学	1	0-1 1-3	4	明治大学
87分 滝川皓也		得点 (アシスト)	39分 小野雅史(長沢祐弥) 53分 小柏剛(村田航一) 62分 森下龍矢(小柏剛) 65分 村田航一(富田光)	



Reported by 貞永晃二(サッカーライター)

明治学院大学

vs

東海学園大学

2018年9月3日(月) 18:00キックオフ
会場/万博記念競技場 天候/晴 入場者数/432人

東京都リーグ1部所属ながら、関東予選準優勝と旋風を巻き起こした明治学院大学の全国初陣。対するは、北海道教育大学岩見沢校に3点リードされながら、延長で逆転勝利した東海学園大学だ。前半は技術の高さを特徴とする東海学園大学がMF30、児玉駿斗(2年)を軸に攻め立て、シュート数9対2と大きく上回ったものの15、20、29分とビッグチャンスを決められず、36分のCKからのシュートも相手DFにゴール内でクリアされた。後半は開始から明治学院大学が盛り返すが、その後54分に東海学園大学FW9、神門滉人(3年)が、65分には明治学院大学DF5、高橋龍世(4年)が決定的なシュートを放つが、ともにGKがファインセーブでスコアは動かず、延長戦では明治学院大学の攻撃陣が、後半終盤に疲労の色が濃くなった東海学園大学を圧倒するが、東海学園大学はGK21、高橋巧(4年)を中心に懸命に体を張ってついに110分を戦い切った。PK方式では一時は1-3とリードされた東海学園大学が追いつくスリリングな展開から、明治学院大学GK1、松田健太郎(4年)の2本止める活躍で明治学院大学が全国初勝利と準々決勝進出を決めた。東海学園大学にとっては前半に悔いが残る試合となった。

明治学院大学	0	0-0 0-0 0-0 0-0 4PK3	0	東海学園大学
		得点 (アシスト)		



Match Review Result & Report

Reported by 荒木茂 (関西学連)

大阪体育大学

vs

福岡大学

2018年9月3日(月) 15:30キックオフ
会場/J-GREEN堺・メインフィールド 天候/晴 入場者数/272人

昨年のインカレ2回戦の再現は延長の末、大阪体育大学が雪辱を果たした。前半、優勢に試合を進めた福岡大学だったが、疲れの出た後半から防戦に回り、力尽きた。

序盤はFW17、梅木翼(2年)とFW10、梅田魁人(3年)の福岡大学2トップが機能し、迫力ある攻撃を展開。これに対し、大阪体育大学も長身のセンターバック、DF4、菊池流帆(4年)とDF5、田中駿汰(3年)がはね返し、双方ともシュートにまで持ち込めない。

18分には福岡大学MF9、古川愛基(4年)が左サイドから切り込み右足を振り抜いたが、惜しくもサイドネット。その後も福岡大学はFKから見せ場を作り、大阪体育大学はカウンターからあわやのシーンを演出。激しい球際の争いと、めまぐるしい攻防が続く見応えのある展開となった。

後半も、両チームのDF陣に乱れがなく一進一退。86分には後半から出場の福岡大学FW11、花田佳惟斗(3年)が抜け出して独走シュート。しかし、相手GK1、立川小太郎(4年)に阻まれてノーゴールに終わった。

後半から足が止まりがちになった福岡大学。0-0のまま延長に入ると大阪体育大学が攻勢に転じた。延長前半の94分、大阪体育大学は左サイドで粘った交代出場のMF20、西田恵(3年)からパスを受けたMF8、堀内颯人(4年)が倒されPKを獲得。これをFW9、林大地(3年)が慎重に決めて、待望の先制点を奪った。福岡大学は延長後半から投入した190cmのFW30、前田翔吾(3年)をめがけて蹴り込みチャンスメークを図るが、最後までゴールを割れなかった。

大阪体育大学	1	0-0 0-0 1-0 0-0	0	福岡大学
--------	---	--------------------------	---	------

94分 林大地

得点
(アシスト)



Reported by 荒木茂 (関西学連)

仙台大学

vs

駒澤大学

2018年9月3日(月) 18:20キックオフ
会場/J-GREEN堺・メインフィールド 天候/晴 入場者数/161人

駒澤大学は立ち上がり、期待のルーキー・MF24、荒木駿太(1年)が右サイドで躍動。守っては、DF3、星キョウファン(3年)とDF4、伊勢渉(4年)の長身コンビがハイボールをことごとくはね返し、仙台大学にチャンスを作らせない。これに対し、セカンドボールを拾えるようになった仙台大学が徐々にペースを握り、MF14、薄葉迅人(2年)の思い切りのいいシュートなどで攻勢をかける。これをしのいだ駒澤大学は40分、FW9、高橋潤哉(3年)が左サイドへ切り込み、中央へ速いクロス。荒木が押し込んで先制点を奪った。

後半に入ると、57分に仙台大学、65分に駒澤大学がそれぞれ絶好機を逸し、駒澤大学1点リードのままスコアが動かない。それでも、仙台大学は78分、FW18、志村弘樹(2年)から縦パスを受けたFW9、本吉佑多(3年)が振り向きざま左足で豪快なシュートを放つと、左隅へ見事に決まり試合を振り出しに戻した。その後は、仙台大学が志村をDFの裏に走らせ、駒澤大学はセットプレーで高さを活かそうとするが、双方ともゴールを割れず、1-1のまま延長戦に突入した。

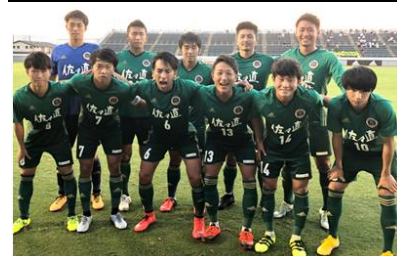
延長の終盤、駒澤大学が立て続けにCKを獲得。粘る仙台大学がタッチに蹴り出し、PK戦突入かと思われた110分、ロングスローからゴール前の混戦となり、こぼれたボールを高橋が蹴り込み、土壇場で駒澤大学に勝利をもたらした。

仙台大学	1	0-1 1-0 0-0 0-1	2	駒澤大学
------	---	--------------------------	---	------

78分 本吉佑多(志村弘樹)

40分 荒木駿太(高橋潤哉)
110分 高橋潤哉

得点
(アシスト)



第42回 総理大臣杯全日本大学サッカートーナメント グッズ販売！

販売価格 700円

売り切れ御免!



販売価格 1000円

第42回 総理大臣杯全日本大学サッカートーナメント 広報企画！



- ・勝敗予想企画でマンダム商品が当たる



応援するチームの勝利を予想して
景品を当てよう！
試合開始前に勝敗予想用紙を
勝敗予想BOXに入れてね！



お買い求めについて

(準決勝より有料)



	前売り	当日
大人	¥800	¥1,000
中高生	¥300	¥400

※試合会場でもお買い求めいただけます。お買い求めは入場ゲート横物販コーナーにて。



禁煙

**禁煙・ゴミの持ち帰りに
ご協力をお願いします。**



好プレーに

CLAP

関西学生サッカーを盛り上げるため、選手たちを熱くサポートしよう！

- ① 関西学連主催・主管大会の入場無料。
- ② 関西学連主催・主管大会のプログラム・チケットの送付。
- ③ ファンクラブニュース、年10回程度発行。

下記の宛先に顔写真(2×3cm)2枚と年会費(4000円)、「氏名・住所・電話番号・生年月日・年齢・職業・応援している大学・選手」をご記入の用紙を同封し、現金書留にてお申込み下さい。

〒541-0059 大阪府中央区博労町1-4-10 博労町エースビル601

関西学生サッカー連盟「ファンクラブ入会」係 まで